

第1回 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会会議録	
日 時	平成26年3月27日(金) 13時30分～16時00分
開 催 場 所	市庁舎5階 緊急対策チーム室
出 席 者	新井 鷗子、池邊 このみ、金子 修司、齋藤 貢一、佐々木 葉、佐土原 聡、 鈴木 伸治、藤野 次雄、森地 茂、矢ヶ崎 紀子、山下 真輝、湯浅 真奈美 (12名) ※敬称略
欠 席 者	中村 文彦(1名) ※敬称略
開 催 形 態	公開(傍聴人4人)
議 題	1 会長選出及び職務代理者の指名 2 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて 3 その他
決 定 事 項	1 森地委員を会長とする 2 佐土原委員を会長代理とする
議 事	<p>(1) 会長選出及び職務代理者の指名</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これより議事に入らせていただきます。まずは、会長選出及び職務代理者の指名でございます。審議会条例第4条2の規定により、会長は委員の互選により選出することとなっております。会長のご推薦、あるいは、ご提案がありましたら、お願いいたします。</li> </ul> <p><b>【金子委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>皆様方の経歴や、お話を伺いまして、どなたも大変なキャリアと経験をお持ちだと思いますが、森地先生に是非、会長の職をお受けいただければと思います。現在、横浜市の都市計画審議会の会長をなさっており、様々な経験も豊かということで、ご推薦したいと思います。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ただ今、森地委員の名前が挙がりましたが、委員の方、いかがでしょうか。</li> </ul> <p><b>【委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異議なし。</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、異議が無いようございますので、森地委員に会長をお願いしたいと思います。これより先は、審議会条例第4条3の規定により、議長である会長に議事の進行をお願いしたいと思います。また、会長には、条例第4条4の規定に基づきまして、会長の職務を代理する委員をご指名いただけますようお願いいたします。それでは、森地会長、よろしくお願いいたします。</li> </ul>

**【森地会長】**

- ・ よろしくお願いいたします。横浜市では今、色々なプロジェクトが動き出そうとしております時で、マスタープランが重要となってきます。色々なご専門の先生方のご協力もいただいて、役に立つようなアウトプットとしたいと思います。よろしくお願いいたします。では、最初に、会長代理の指名をさせていただければと思いますが、もしよろしければ、環境影響評価委員会の会長を務められていて、また、色々なご経験のある佐土原先生にお願いいたしたいと思います。

**【委員】**

- ・ 異議なし。

**【森地会長】**

- ・ では、よろしくお願いいたします。

(2) 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて

**【森地会長】**

- ・ 議事次第に従って進めていきたいと思えます。議題2 横浜市都心臨海部再生マスタープランについて、事務局からご説明いただきます。

**【事務局】**

- ・ 資料5、資料6の説明。

**【森地会長】**

- ・ どうもありがとうございました。ただ今の説明に対して、ご意見、ご質問をいただければと思えます。

**【鈴木委員】**

- ・ コメントになるのですが、今、都心臨海部で起きている状況というのは、商業・業務、それと住宅、それと観光の要素が三すくみ状態にあり、例えば、住宅がこれ以上増えると、観光のイベントがどんどんやりづらくなるとか、また、オフィス街として企業立地しようという企業も少なくなる。そういう状況があって、資料の全体の骨格としてはクリアな感じはするが、どういう風に肉付けをしていくのかという方針が見えにくいように感じる。例えば、市庁舎の移転を控えて、かなり民間のオフィスの流動性が高まると予想される中で、企業を呼び込む、又、横浜でスタートアップする企業を増やしていく環境をどのように作っていくのか、特に後者の業を起こしてもらうためには、やはり、今でも都心の家賃は高すぎる、そういった時に、建替えや再開発を進める形の従来型の都市づくりを進めるよりは、むしろ、リノベーションを進めるような、地価を顕在化させない都市づくりを、特に旧都心部について展開したら良いのではないかと思います。マーケットからは、特に、横浜駅周辺やみなとみらい地区は評価されていて、評価されていない部分については、思い切って方針転換をするような流れが必要ではないかと思います。以上です。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございます。

**【佐々木委員】**

- ・鈴木先生がおっしゃることに関連するのですが、住まいとオフィスと観光と、うまくかみ合っていないという中で、臨海部という元々は港であった港湾の機能や物流の機能や、そういったものの位置づけをこのマスタープランの中でどう認識して考えていけば良いのか、教えていただければと思います。

**【藤野委員】**

- ・関係するかもしれませんが、今言われた業務・商業系と住居系と観光系と、中で相互に分けてしまうのではなく、相互に良い影響を与え、相乗効果で伸ばしていくようなことでないと、限られた範囲の中でやっつけようとするとならざるを得ないか。そうすると、まずいのではないかとということ、そうは言っても、各地区で特徴をしっかりと出していく面が必要ではないか。また、それと同時に、国際化とか、グローバル化とかを進めていくのであれば、例えば、24 時間仕事・生活ができるような環境を整えるような、時間的・空間的なバリアを取らないと国際都市横浜という思い切ったことはできないのではないか。この近くに羽田空港ができて、港の機能もあって、空と海のハブが近くにあるということをうまく使って展開させていくのは、良い考え方ではないかと私自身は感じている。ポートサイド地区に 10 年ぐらい住んでいるが、ここ 10 年間の発展というのは非常に良くて、住居としても、企業誘致の面でも、しっかりと誘引を与えることで、日産とか、富士ゼロックスとか、三井とか、色々入ってきている。ああいうものに対して、一つはハード面で思い切った環境整備を行うこと、もう一つは、ソフト面でインセンティブを与える施策も必要ではないかと感じている。マスタープランも、施策まで書くのか、絵だけ描くのか、そのあたりもご質問させていただきたい。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございます。では、ここで一回事務局の方にお答えいただきます。

**【事務局】**

- ・順不同になるかもしれませんが、都心臨海部ということで、海に面しており、元々はみなとみらいの所も造船所があり、いわゆる港湾機能がずっとあった場所です。今回の都心臨海部マスタープランでは、例えば、現在もふ頭として使われている山下ふ頭を再開発して、港湾物流系の機能から、いわゆる都市的な土地利用に転換していこうと考えています。その中で、港湾機能でなく、例えば、国際ビジネスとか文化芸術とか、観光・MICE といった機能に転換していく発想としていきます。それから、鈴木先生のおっしゃられた今後のまちづくりを進める上で、新しい開発型でいくのか、リノベーション型でいくのかというお話は、今後の検討の参考になると捉えており、確かに、横浜駅周辺やみなとみらいというのは、ポテンシャルが高いものの、そこから少し離れてしまうと、企業誘致の際には引

き合いがないということもありますし、現在の関内あたりも、なかなか新規の建替えが起きてこない状況にあり、既存のビルが古く耐震上の課題がある中でも、建替えても借り手が来ないということでは、リスクを冒してまで、建物を建替えるような動きになっていかない状況にあります。そうかと言って、空き家のままで良いという訳でもなく、そういった打開策が見つからない中で、昨今ではアーティストやクリエイターの方に来ていただいて、起業を進めていくとか様々な取り組みをしていますが、今後それをどうしていくのか、示していかないといけないと認識しています。それから、空間的・時間的バリアを取り除くという話は、横浜の強み・弱みの部分で、観光客の視点では、ショッピングの面で、魅力ある商店街があるものの、お店の閉まる時間が早いなど、例えば、東京のように、夜遅くまでお店が開いているというような、最近の様々なライフスタイルに対応できるような時間的なものになっていないという弱みを認識しており、その部分で何か考えていかなければいけないと思っています。それから、空間的なバリアと言いますのは、例えば、この中で挙げております回遊性なども、空間的なバリアを取り除くための一つの手法にはなるのかと考えており、ベイバイクやチョイモビなどの社会実験もやっておりますし、歩行者のためのプロムナードの整備なども昔から取り組んでおり、様々な交通手段を使って回遊しやすさを作って、空間的なバリアを取り除いていくことも、一つの方法と捉えています。それと、マスタープランの位置づけについてでございますが、今回は 2050 年という 36 年も先の将来像を描こうということで、都心臨海部がこんな街になったら良いなという絵姿を描いて、そこに向かって、それぞれのステークホルダーが活動していく目標となるものを描いていければという発想でいます。ですので、いわゆる実行計画というような、極めて詳細な部分まで作ろうということではなくて、まずは、2050 年の絵姿を描いて、それに向けて、今後は色々な立場の人が、それに向けた計画や政策を作っていくという主旨で我々は捉えています。

- ・ 補足をさせていただきますと、先ほど委員から、港湾の位置づけに関するご質問をいただきましたけれども、港湾の機能は大きく物流系と賑わい系というものがあるかと思いますが、山下ふ頭は現在、物流系だけの機能となっております、そこに、2050 年に向け段階的に賑わい系の機能を展開していくことを考えております。

**【矢ヶ崎委員】**

- ・ 3つほど質問をさせていただきます。1つ目は、全体をきれいにまとめられておりますので、では具体的にどうやって進めていくのかということで、P.7 の戦略の中で、国際ビジネス・MICE とありますが、今後は特に、MICE の C と E を重点的にやるという理解でよろしいでしょうか。2つ目は、右の図で青い矢印のみなと交流軸が湾を囲むように設定されておりますが、こちらのみなと交流軸の交流というのは、どういった交流の実態を持たせようとしているのか。例えば、交通手段についてなのか、あるいは、回遊のストーリーを生み出すものなのか、みな

と交流軸にどういう実態を持たせようとしているのか教えていただきたい。フレームを検証する上で関係してくるので、もし今の段階でこういったイメージということがありましたら教えていただきたい。最後の質問は、先ほど羽田空港の増強の話もありましたが、やはり、良い意味でも悪い意味でも、東京というものが近くにあり、それが持つリソースとの関係で、連携について、どのように考えていけば良いか教えていただきたい。横浜というブランドを考えた時に、国内では横浜のブランドはかなり強いものがあると考えているが、訪日外国人から見たときに、ある一定期間は東京も活用しなければならない、そういうことも、観光の面からは考えないといけない。なので、東京との連携ということで、私どもが踏まえておかなければいけない点がありましたら教えていただきたい。

**【森地会長】**

- ・どうぞ。

**【事務局】**

- ・ MICE につきましては、所管しております文化観光局が来ておりますので、そちらから回答させていただきます。
- ・ MICE の中で、どういった分野に力を入れていくかというお話ですが、文化観光局では、概ね 10 年を想定した MICE の中・長期的な計画の素案を作成しております。その中では、横浜の強みを活かして、誘致をしていきたいということで、今の強みとしては、国際展示場・会議場・ホテルが一体となった All In One の施設であるパシフィコ横浜と考えております。その中で、中・大型の国際会議、特に、医学系とか、ライフイノベーション関係の開催実績が横浜にはありますので、それらを中心として、当面誘致を強化していきたいと考えております。現在、パシフィコ横浜の隣接地であります 20 街区という土地がありますけれども、そちらに新たな MICE 施設を作っていくと計画している所です。
- ・ みなと交流軸の交流の意味についてですが、一つには、施策に挙げておりますとおり、回遊性もありますけれども、ただ単に、人が動くという交流ではなくて、元々の横浜都心部 3 地区に、2 地区を加えてエリアを広げようということもありますから、それぞれが持つ特徴や地域資源を、各地区だけで使うということよりも、うまく連携をしていきたいです。今回の目標はやはり、5 地区をうまく連携して、相乗効果をどうやって高めていくのか、一つ一つの地区はまちづくりを一生懸命やってきており、これからもやっていく中で、全体として、うまく相乗効果を持たせることによって、全体として更に強くなるようなことを、具体的にどうするというのは難しい所もあるが、イメージとしては、そういったものを考えています。その中で、交流というものが、いわゆる人の交流あるいは、活動の交流、文化の交流など、色々あると思うが、そういったイメージを持っています。次回の審議会にご説明する 5 つの施策の中で、魅力の増幅とか、回遊性とか、あるいは、環境もそうですが、軸というものも意識して準備をしており、それで、交流ということの意味のイメージを高めながら議論いただけたらと思っております。

す。それから、東京との連携、あるいは、場合によっては差別化ということもあるのかもしれませんが、やはり、ビジネスの分野では、おそらく、東京と張り合う又は、東京に追いつくということは、なかなか難しいであろうと、あまりそこで張り合うというよりは、東京は東京でそういうものがあるという中で、横浜の強み・オリジナリティをどう出していくかということだと思っています。一つ、本日欠席の中村先生から、事前にいただいておりましたご意見で、東京の近くに横浜があるということを見つめるのではなくて、ポジティブに、あるいは、したたかにそれを捉えて、東京を利用するような形で横浜の将来像を考えた方が、リアリティが出るのではないかというご指摘をいただいております。具体的ではないのですが、考え方として、そういった発想でいけたらと考えております。

#### 【金子委員】

- ・ 2つほど、私の意見と、考えていただければということなのですが、一つは、今お話に出ましたみなと交流軸ということですが、この大きな軸によって、それぞれが開発又は進化をしようとしていたものが、必ず結ばれるであろうと、私は、やっとな、こういった多面的な目で、このエリアが見えるという、大きなグランドデザインにこれはなると、大きな期待を持っている一人であります。一方で、やはりこれは、海からの視点というものが大事だと思いますし、その中で、先ほどご説明にもありましたが、接続されている瑞穂ふ頭のエリアについても、これはなかなか放さないとは思いますが、現実には、この大きな土地があって、例えば、環境問題をこのあたりで提起はできないかと思っている。例えば、緑の問題であるとか、環境の基準みたいなものを横浜並みとするような新たな考え方ができないか。それをこの中にうつつし込んでいただきたい。それぐらいの提言をするチャンスではないかと捉えている。それから、交流軸については、人・モノが動くためというより、漠然としたイメージとして広げておくことはできないかと思っていて、常に、ここで書かれている軸のイメージを市民や街の人達に持っていただく、そのための媒介は色々なものを出して行って、このゾーンを考えていけば、あまりここで、何をやりますということではなくて、みんなで考えていくものとしたらどうかと思いました。

#### 【佐土原委員】

- ・ 私も意見になるかと思いますが、まずこの場所のユニークで良い点というのは、海に直接面して、これだけの都心部が広がっていることだと思います。おそらく東京の方では、都心部が内陸に入ってしまった所が多く、これだけしっかりと海に開けたところに都市が広がっている横浜は、その良さ、魅力を十分にアピールできる場所にあると考えています。それから、これからの施策の一つの視点として、発展している色々な技術が、これからの将来像とも関わってくると考えています。例えば、エネルギーですと、これまでの大型で集中型のものから、分散型で効率の良いものが増えてきている中で、今回、拠点を連携していく、そういう姿と技術的な変化とが、方向として一致してくる面があり拠点がお互い

に連携し合う中で、技術的に効率を高めたり、あるいは、安全性を高めることができるようになってきているということがあります。それから、もう一つ、情報技術が変わってきていて、色々なことが身近に感じられるように見せられる状況になっているので、この場所の立地のよさとか、環境への取り組みなど、目に見えないものが見えてくることで、より価値を高めていけるよう、技術的な変化とうまく組み合わせていく視点を入れていただけると良いのではないかと思います。

**【池邊委員】**

- ・私も、千葉大にいますのですが、ずっと東京都民でして、先ほどからお話を聞いていると、東京が今、オリンピックに向けて非常に早い速度で整備を進めている、その中で、その先の 2050 年を目指すということでありましたが、2050 年に何が起こるかという、今機能しているパシフィコやみなとみらいにテコ入れをしなければいけない時期に入ってくると思います。あるいは、ああいう形のオフィスやショッピングのモールが 2050 年にも通用するののかという問題がある。もう一つは、私は民間にいた時に、外資系の企業が何をを目指すのか、少し関わらせてもらったことがあって、先ほど国際会議というお話がありましたが、そのあり様も、どんどん変わってきますし、そのために必要なものというの、これから 20 年以上経つと、IT の分野もどんどん変わってきますし、今のような大収容力とその周りというものが、果たしてそうなのかということと、もしそうなった時に、東京に無くて、横浜にあるものといえば、歩いたり、ジョギングをしたりして楽しむというような、東京のホテルではできない連担性みたいなものはあるのではないかと思います。昔は、ニューグランド、中華街、山手地区というのは、東京に無くて、横浜にしかない魅力で、東京都民がそれを目指してやってきました。ただ、今は、逆に、パシフィコとかみなとみらいとかは、東京に無いかも知れないが、またそれを越えるショッピングでは、六本木とか丸の内とかできていて、おそらく、それと違う魅力というものを横浜らしさとして再考する必要があると思います。そこで、気をつけなければならないのは、先ほど港湾物流の移転の話がありましたが、海外だとオランダとか、EU 最大の再開発であるハーフェンとかでは、特徴をうまく生かしたまま再開発をやっているのですが、日本では、土地利用を変えようとした途端に、そこに、品川・大崎のようなオフィスビルのようなものや、あるいは、幕張新都心のようなものとかになってしましますが、逆に 2050 年になったら、そこは箱が空いてしまうということもあるのではないかと思います。物流の場所を土地利用転換していく際に、どういった形になるのか、クリエイティブシティなのか、あるいは、教育施設なのか、魅力のある水際線に配置できる施設として、閉鎖型のオフィスビルではなくて、水際線に開かれたものとして、やっていくのか。そこに、今まで取り組まれてきた、クリエイティブシティというものが、どう顕在化できるのか、整理していただくと良いのかなと感じました。もう一つは、公園の話ですが、例えば、シカゴのミレニ

アムパークでは、シカゴのイメージを一掃するのに役に立った公園で、私どもランドスケープの人間の目からは、樹木中心のものではなくて、ハーブとか、非常に多様な植物があって、いわゆる日本の花壇や樹木という形ではない、緑のあり様が提示されていて、横浜港の再考の時もそうでしたが、海から見た横浜というものが、あまり美しくなくて、それを再生するときに、今お伝えしました新しい緑のあり方とか、土地利用転換にあたっての暫定的なものとか、あるいは、クリエイティブシティの一環として、施設を転換するときに、色々な土地利用にできるとか、先ほど、鈴木先生のお話ですと、限定しないとイベントができないお話もありましたけれども、地価の高い東京や、物流機能が離れてしまっている東京ではできないことが、横浜にはできるという仕掛けができて、それが、港に入ってくる時の横浜港の美しさに繋がる演出にできると、それは東京港には無いものになるのかなと思いました。

**【新井委員】**

- ・音楽施設の面から意見を述べさせていただきたいのですけれども、世界から見た横浜のデータを見ると文化・交流分野の評価が十分に得られていないという状況の中で、例えば、オペラ劇場をつくるとか、コンサートホールをつくるとか、具体的な再開発の案の中で、そういった話が持ち上がってくると思うのですけれども、その中で、慎重に進めなくてはいけないのは、日本中で劇場やホールは飽和状態にあって、一方で、国際都市という視点からステータスを見た時に、オペラ劇場を持っているということが一つあると、林市長もおっしゃっていたが、オペラ劇場の稼働率自体、営業的な面でも、日本ではなかなかオペラというものが根付かないということがありまして、大きな劇場を建てる際に、そのあたりを慎重に考えていかなければいけない。と言いますのは、劇場も、ポコッと新しくできれば良いということではなくて、そこには、専用のオーケストラと専用の歌手の団体と専用の音楽監督、それに付随するたくさんの人を抱えないといけない。なのに、日本のホールでは、施設しかなくて、そこに外国のアーティストを呼んで演奏するというような、東京の新国立劇場も、稼働していて、お客さんもたくさん入っているけれども、海外からの評価としては、オリジナリティがないというようなそういう評価であったりするのですね。そういう貸館だけのものになってしまうように、先ほど、矢ヶ崎先生がおっしゃられていた、東京との連携ということを慎重に考えていかないといけないと思う。それで、東京との連携を考えた時に、東京と横浜で同じプログラムをやったとしたら、東京では満員でも、横浜ではそうでないということがあるので、やはり横浜では、横浜でしか聴けないもの、そういうものを作っていけないといけない。具体的になってしまうが、この所、横浜出身のバレエダンサーが世界で活躍しているので、例えば、バレエ学校とバレエ劇場と、そういったものに特化した宿泊施設であるとか、バレエ専用のホールは日本にはまだ無いので、横浜が第二のローザンヌ国際バレエコンクールの拠点になるような、そういった横浜初、横浜らしい劇場の建設ということ



がもしあれば、考えていかなければならないと思っている。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございます。どうぞ。

**【湯浅委員】**

- ・先ほどお話のあったマスタープランの位置づけについてですが、大きな将来像を描くというご説明がありましたが、はじめにこのお話をいただいた際に、2020年ではなく、2050年の将来像というのは、大変大きなお仕事だというふうに思いました。今、日本では、2020年をどうするかという議論が始まったばかりで、更にその30年後の将来像というのは、非常に大きいと思う。そこで、P.6にある、都心臨海部の将来像を拝見しますと、世界に対しての発信や成長、誘致などに重きが置かれていますが、この文書の最初に大きな社会課題として挙げられている、超高齢社会とか、人口減少ということと、マスタープランで掲げる将来像とが、どのように関係性があるのかさらに議論が必要だと思います。併せて、この横浜市全体にとって、このマスタープランの対象地域と、それ以外の地域とで、格差がみられるというお話もありますが、都心臨海部にこれだけの投資をするからこそ、その他の地域にどのような波及効果が望まれるのか、特に、このマスタープランで掲げる2050年の将来像が市民にとってどのようなビジョンを提示するのかというのは、非常に大切な視点だと思います。一番重要な将来のビジョンについて、議論をもっとしても良いのかなと思いました。現在、文化観光局では、10年後のビジョンを策定している所とは思いますが、それにつづく2050年のビジョンとの連続性が大事だと思います。今回、指標として、世界都市ランキングが使用されていますが、その中でロンドンが一位になっています。過去のデータを見てみますと、ニューヨークがそれまで一位で、ロンドンはオリンピックを契機に世界1位になりました。ロンドン市の方に話を聞いたのですが、ロンドンでオリンピックを迎えるにあたり文化と観光、そしてビジネスを連携した施策を取ったそうです。大規模で質の高い文化プログラムを行ったことにより、都市のイメージがアップして観光の面でも大きな効果があったそうです。そこで大事になるのが、将来に向けた教育や人材育成、また、市民の生活の質をどのように向上するのかということだと思います。もう一つ付け加えると、超高齢社会に対する取組みについて、日本は世界をリードしていくことにもなると思います。英国のキャメロン首相も、英国も日本に次いで、高齢社会に向かっていくなかで、高齢社会に関する問題は一国では対応できないということで、G8のリーダーと連携をして、この超高齢社会に向かっていこうと、昨年12月にG8の認知症に関するサミットを初めて英国で開催しました。こういった分野において、2050年、横浜が日本だけではなく、世界をリードして、イノベーションを起こしていく、それに向かって、文化芸術・クリエイティビティ、そして、その他研究、開発、ビジネスが一つになって、新しい社会を提示していくということもあるのではないのでしょうか。

【森地会長】

- ・ありがとうございます。

【山下委員】

- ・私は、この資料の中で一番大事なのは P.6 と思っています。やはり、ゴールイメージが共有されないと、手段も統一されてこないということで、この将来像というものが最も重要じゃないかと思います。臨海部イコール横浜だと思いますので、横浜市そのものが何を目指すかということで、横浜市で最重要なマスタープランになると理解しております。最近、富岡製糸場と八王子と横浜を繋ぐ新シルクロードというブランドをつくる活動に係わっておりまして、この間もシルク博物館でシンポジウムを行いました。その中で、横浜の街はどう出来上がったかと、改めて勉強する機会がありまして、その関連シンポジウムがシルク博物館で開催されましたが、その際にたくさんの欧米人が来場していました。博物館関係者になぜこんなにいるのかと聞いてみたら、ちょうど外国の船が着いたからということをおっしゃっていましたが、残念ながら、博物館の中に日本人はおりませんでした。ただ、シルクの歴史が無ければ、横浜は無いと私は思うのですが、横浜市の DNA が何かということが、おそらく横浜市民に共有されていないのではないかともしました。横浜は働く場所であっても、住んでいる場所ではないという方も多くおられると思いますが、どのくらい多くの市民に横浜の郷土愛というものがあるもののでしょうか。九州の長崎の市民の方と飲みますと、だいたい 2・3 時間長崎の自慢話となりますが、横浜市の方と飲んだときに、どのくらい横浜の自慢話となるかということを考えてしまいます。横浜の DNA は何かを考えて、これからの横浜のコンセプトを考えていかなければならないのではないかと思います。また、世界の名だたる都市と並んでいくためには、何の「キャピタル」なのかと問われることになるかと思えます。例えば、シンガポールは、「キャピタル・オブ・アジア」と彼らは言い切っていて、食・文化全てにおけるアジアのキャピタルであると言い切っています。「横浜という都市はこういうテーマである」と明確でなければ、おそらく横浜が世界の都市ランキングの 10 位以内に入ることは難しいと思います。私は、たまたま福岡市の戦略づくりに携わっていますが、福岡も歴史を紐解くと、平安時代の平清盛の時代に日宋貿易で栄えております。日本の最初のチャイナタウンは、福岡の中州・博多辺りとなっています。そういう所から振り返って、やはり、福岡市は人の交流から成り立ったということで、人の交流をこれからの成長戦略にしようとなり、「東アジアのビジネスハブになる」というコンセプトを掲げることになりました。一方、横浜はどうなのかと言いますと、歴史的背景からすると、安政 6 年に開国して以降発展し、海路中心だった時代が終わるに従って次第に都市の果たす役割も変わり、現在では横浜の街は成熟しきって、都市の果たす役割は何か、何のテーマの街か、分からなくなってしまう可能性があります。このことは MICE 振興にも繋がる問題です。横浜で開催されている国際会議は、誘致の段階では、「グレーター東京」

として誘致を行っています。規模の大きな会議は、なかなか東京都内で開催できないから横浜でやるという案件は多いと思います。このことは MICE 振興の実績につながることであるので良いことで、割り切ってそのような戦略は良いことだと思います。しかしながら、私は、ビジネス的には良いと思っていますが、横浜で開催しなければならない意味、横浜で開催することにこの会議の意味があるという理由になるものをアピールできるかは大事なことではないかと思います。都市の目指すコンセプトやテーマが明確であれば、横浜で開催することが目的の国際会議が多く誘致できるようになってくるのではないかと思います。そのようなことが今回のマスタープランのコンセプトにあたる所になると思います。このテーマは東京で開催しても意味が無いのだと世界の方が言ってくれるような明確なテーマが無ければ、横浜が世界の都市ランキングで 10 位以内にはおそらく入らないと思います。世界の外国人観光客の人気の都市として、広島がものすごく注目されています。トリップアドバイザーの「訪問してよかった日本の都市ランキング」で、上位にランクされる街が広島です。訪日外国人観光客が訪れたい場所として 1 位にランクされている平和記念資料館に訪れた方が、広島街があまりにも美しく、感動して、資料館を目的として来ている方が、広島街の大ファンとなって世界中にその素晴らしさを情報発信しています。では、横浜に来られた外国人観光客が、横浜街は良かったよと、世界に発信してくれているのかということが問われてくるのではないかと思います。今回のマスタープランのコンセプト案にある「色々な目的地」ということで、広げるのではなく、何か強力なテーマを考えていかないと、これから人もお金もなかなか集まってこないのではないかと思います。ここは非常に重要なポイントになりますので、しっかりと議論を、別の形でも良いのでしていくべきではないかと思います。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございました。

**【鈴木委員】**

- ・今の、何をテーマとしていくかということですが、私としては、やはり、横浜は港町としての歴史と文化を中心にすべきではないかという風に思います。P.6 の考え方の中では、その辺りが簡略な形かと感じていて、本物をちゃんと残すということをやって行くべきです。というのは、アジアの都市計画が非常に変わってきていて、上海や台北、バンコク、シンガポールもそうだが、古い建物を残す都市計画が変わった、ものすごい勢いで変わってきている。そのあたりの方が訪れる際に、横浜に来たけれども、オリジナルのものが見られないのであれば、魅力にならない。例えば、非常に新しい開発であれば、上海の方が進んでいると思っていますから、海外から来た方のエクスペリエンスを考えた際に、やはり横浜は横浜として、本物を残していくこと、そういうことを 1970 年代からやってきた訳ですから、本物が残る街と、そういう風な方向性を出していくことが必要かと思っています。それから、やはり、文化に関する投資がまだまだ足りないかと感じて

いて、それは、お金を投資するという意味ではなくて、もっとソフトなマネジメントの部分も重要で、例えばもっと文化芸術活動をやりやすい環境を作っていくことも重要で、港湾緑地についても、なかなか展示やイベントがやりにくいという話も良く聞くので、そういった所を突破していただけても変わってくるのではないかと。また、世界的なアーバンデザインのトレンドとして、公共空間をいかに再編していくかということになっていると思います。資料にあるニューヨークのタイムズスクエアも、道路を通行止めにして、人の集まる所に転換していたり、そういった人の集まるパブリックスペースを生み出していく流れの中で、横浜はまだまだそういったことができる点があるのではないかと。公共交通機関を見直すという話ではなく、道路空間自体も使われ方を見直して、もっと人が歩いて楽しい都心にしていく、そこに文化芸術が絡んでいくようなイメージがあっても良いのかなと思いました。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございました。
- ・都市比較は良いとして、臨海部だけ取り上げると、横浜はどういう位置にあるのですかね。臨海部だけ見た時に、港町はみな歴史があるが、港町でも川沿いの閉鎖的なものから、ニューヨークのような島になっている所とか、元々の形は違うのだけれども、それぞれの港町と比べて、横浜の売りはこれだというような、港町と歴史に加えてもう一つあると良いのではないかと。最近では中国の天津が大きく変わった。昔のイタリア街とかフランス街とか、小さなものが多いが、川沿いはすごくきれいになっている。シンガポールも対岸をやっているが、横浜でみなとみらいをやったときと同じことをやっても、あんまりかと思う。その辺りが、本日の皆さんの問い掛けになりそうである。そこまでは分かるが、では具体的に何をやるのかということになると難しいが。もう一つ、東京から見ると、パリ、ロンドン、ニューヨークとなるが、富士山や箱根を入れると、絶対に東京が強い、それで、何年か前に、富士山で何かやろうとした時に、ディズニーランドが投資するという話があって、なぜかというと、中国の新しいディズニーランドに対し、日本で負けないものは何かということ、富士山ということであつたらしい。東京プラス富士山ということ。今回の計画は中を扱うのだけれども、外も考えていくことも大切になってくる。

**【藤野委員】**

- ・先生が言われている一つに、この範囲がどうなのかと。今回新たに2地区を付け加えようということですが、それによって、横浜市の臨海部の特徴を引き出せるような場所を加えたということなのか。なぜ、東神奈川や山下を入れることになったのかと。私なんかは、フィッシャーマンズワーフのような、本当の海のレジャーができるようなものが南の方にはあって、北の方には、中央市場があって、それはそれで、古い地元の海苔屋さんもあって、おもしろい街となっている。新たに二つ付け加えることで、どういった事業展開ができるのかということ。また、

先生がおっしゃられた横浜に無いものを横浜でつくろうとするのか、例えば、箱根とか鎌倉とか三浦半島とか、そういう所と横浜をセットで売るとかいうことも考えられる。最近ある説明を受けて、ある企業が川崎に本店を持っていても東京本社、成田も東京国際空港とっているが、そういう意味で、横浜のブランドをどう作っていくのかと、他地域と連携していく中で、横浜というブランドを出していくようなことが、もう一つの戦略として考えられるのではないかと。この中で全てをやってしまうということも戦略の一つとは思いますが。

**【森地会長】**

- ・ 確かに、このエリアのプランは作るにしても、それを売り出すときに、どうするのかということはある。

**【矢ヶ崎委員】**

- ・ 今、先生がおっしゃられた売り出し方の部分で、戦略的に考えた方が良いかと思えます。東京の中でさえ、東京のライバルはニューヨーク、ロンドン、パリで良いのかという議論があり、全世界を見ていく中で、首都として譲れない部分はあると思うが、横浜は、先ほどキーワードとしてあがった「したたかに」ということで捉えていくと、成長力の高いところだけを見ていくのも良いのではないかと。人というのは、近場で非常に頻繁に動いていて、そこでお互いに情報を知って、大きな消費を行っている。距離の遠いところからというと、いらしていただくと、何泊もしてくれるが、やはり量としては小さくなってしまふ。これは、観光流動を考えるとときのベーシックな考え方ではありますが、そういったものと、これからの成長地域というものを考え合わせた時に、地理的に見て、横浜がアジアから見て有利なものはないだろうかとか、誰からの目的地となるかとしているのかとか、例えば、最初の10年間はここ、次はその成果を見てここと、ターゲットとする市場を変えていっても構わないのではないかと。誰からの目的地になりたいのか。その上で、競合者はだれなのか。もしかしたら、福岡がそうなっているかもしれない。福岡も20年ほど前から、アジアの拠点ということを総合計画の中で掲げて、着々と取り組んできている。その中で、ランキングでターゲットとしていくのは、やはりシンガポールとか、オセアニアだとか、考えていけない。

**【佐土原委員】**

- ・ 富士山の話がされていましたがけれども、横浜は富士山からの水が来ていて、東京には行っておらず、横浜の文明開化を支えたのは、実は富士山からの水です。道志が最初ですけれども、その後は桂川から相模川ですから、富士山に支えられているなど、掘り起こしていくと色々ある。先ほど、歴史的なDNAというお話もありましたが、改めて確認していくと、特色がより浮かび上がって、競争力も上がっていくのではないかと。

**【森地会長】**

- ・横浜は非常に魅力的で、企業立地ももっと進んで良いのに、例えば小樽などを考えると、小樽に立地する企業はだいたい札幌に行ってしまう。それと同じで、東京があることによって、相対的に一位になれない、そういう苦しさですよ。だけど、先ほどの話にあったように、ぽつぽつと来るようにはなった。これは、東京圏が拡大したとか、そういうことかもしれませんが、東京はある面ではライバルであって、横浜を魅力的にするということで、東京をどう捉えていくのか。負けないぞという気持ちも分かるし、横浜もしたたかにやっていくことはあると思う。もう一つ、1位になりたいとどの地域も思うが、なかなかきれいなときに、日本人は、〇〇三景とか、〇〇百景とか、スタンプラリーとか、一人で勝てないときに、その中の一つとして、ちょっとした違いを売り出して人を寄せていたりもする。あれは外国にもありますか。日本人の知恵なのか、ああいうやり方もある。神社はやらないのだが、お寺はやっている。これもソフトの話になるかもしれないが、マスタープランをつかった上で、そういう戦略もある。そういうものも少し入れとこうよということもある。

**【金子委員】**

- ・なかなか難しい問題と考えているが、来街者という観光客がたくさん横浜に来ることを発展という人もいるが、例えば買い物をする観光客でもたくさん来れば、それで良いのか、やはり、そこの文化を学ぶという視点で訪れる方を、観光客として招き入れて、横浜もそういう人に対して良い街になることが本物と感じる。ですから、みなとみらいとか、東神奈川にショッピングセンターができて、あつという間にREITで権利が変わって、その頃には、社会情勢が変わって、買い物客で非常に売上が上がった、としても、こんな話は非常に残念であって、私は、観光の質と言いますか、是非そういったところも、この中にうまく盛り込めると良いと考えている。

**【森地会長】**

- ・ただ、そういうことは必ずあるようである。それをどう捉えていくかはある。マーケティングの中で、どう考えていくかである。

**【鈴木委員】**

- ・マーケティングというか、誰をターゲットとしていくかでは、首都圏の高齢者というのが、一番大きいのではないかと考えていて、時間もあるし、お金もあるし、街を楽しむ目も肥えていて、その部分は、ちゃんとターゲットとして考えた方が良いのでは。横浜に住んでいて、横浜都心部を利用していない方も多いので、そういった方は泊まらないので、観光客としては落とすお金は少ないかもしれないが、高齢の方がマーケットとしては大きくなることは明確なので、そういう人が満足できる場所をつくることを明確に示しても良いのかなという気がします。もう一つ、企業の立地で言うと、京浜臨海部に実は研究拠点が非常に多い、京浜臨海部は土地が安くて、けども、規制がかなり強く、あまり自由にできない、

そういう古い工場の一角に、研究拠点なんかが結構あって、他の都市からはうらやまれるような研究拠点が京浜臨海部には分散している。その部分をうまく使えないかと。そういうところにいる人達、かなり専門性の強い人達が楽しめる街とか、そういった研究拠点と連携した本社機能が横浜の方にきているとか。明確に言うと、土地が安いからできることがあって、東京は高いが、横浜は投資すれば、こんなに豊かなスペースが得られるというストーリーもあるのではないかと。

#### 【池邊委員】

- 先ほどの話とも関連するのですが、イメージというものが、薄くなってしまっているのが非常に勿体なくて、今私は、世界遺産の関係で色々やっているのですが、日仏のシンポジウムを行った際に、フランス人なんかは江戸園芸や江戸の文化とか、あるいは富士山と言っても富士講だとか、非常に造詣が深くなってきていて、ただ、江戸という一つのイメージで東京は語れるところがあって、ところが、先ほど山下委員もおっしゃっていましたが、横浜と言った途端に、イメージが非常にぶれる。ある人はみなとみらいで、ある人は、日本大通りで、ある人は山手とか、年代によっても非常に違う。鈴木先生は高齢者ともおっしゃっていたが、36年後の高齢者はあまりリッチとは言えない。あと、中国人、韓国人も、日本に学ぶ時代では無くなってきていて、留学生は何を学びに来ているかということ、全員が歴史的な街並みの再生の勉強のために来ていて、自分たちの時代は、再生の時代だといっている、日本が実際にできているかは別として、手法を学びにきている。一番履き違えてはいけないのは、30年後だということ。もう一つお伝えしたいのは、岩手県の中で、イーハトーブという言葉が岩手県の一つの代名詞となっています。私が文化庁の審議会に携わっていた時に審議したのですが、あれは、岩手県と言うんだかよくわからないものと、宮沢賢治というよく分からなかったものが、イーハトーブという言葉で、岩手県の宮沢賢治に出てくるようなものを一つ打ち上げた訳で、結果として、文化庁の名勝指定のキーワードであったのが、今では岩手県の観光ののぼり旗になって、平泉にもあって、大きな経済効果を生みだしている。それで、さっき山下委員がおっしゃっていたことで、横浜は何が売り物なのか、その一つのイメージを古いものからも掘り起こすのだろうけれども、何かしら日本全国共通で又、海外の人も横浜と言った時にこれとイメージを語れるものをきちっと定められて、それになるべくぶれないように、周りの土地利用を揃えていくというような、ガイドが必要なのではないかと。そうでなく、色々仕掛けていくと、結果的にバラバラな形になってしまうのではないかと。

#### 【湯浅委員】

- 先ほど、他の港湾の都市の話が出たと思うのですが、各都市が戦略的に都市の特徴を生かした街づくりをしています。そこで一つ事例のご紹介なのですが、英国にブリストルという街がございます。ロンドンから電車で約1時間半と、距離的にもロンドンからも近くに位置している街です。そのため、経済活動の集積が

難しいと思われるかもしれませんがブリストルはイノベーションやリサーチ分野に力を入れています。複数の大学機関や、東芝など企業のリサーチラボが拠点を置き、英国の中でも、クリエイティブな経済活動が活発な都市になっています。ブリストルで活動するアーティストと話をしたのですが作品の発表はロンドンで行うけれども、制作はブリストルで行いたいと言っていました。アーティストが滞在したいと思う街であり、デジタルや映像、テクノロジー産業が盛んで、大学機関とも連携が取れているという印象です。英国の中でもクリエイティブエコノミー政策のリーダー的役割を担っているとも言えます。横浜が持つ資産として、古い歴史的なものもあるが、港町として国際的なイメージをいうのもあると思います。これは、ロンドン市の方から伺ったのですが、最近ゲーム産業就業者数のランキングで、カナダが英国を抜いて世界3位になって、英国の順位が下がったそうです。その理由の一つが、カナダが税制優遇措置をとったことで、ロンドンなど海外のクリエイターがカナダに移ってしまったそうです。そこで、ロンドン市は、再びゲーム産業を活性化することを目的に掲げて様々な政策を練っています。産業振興だけでなく、教育、人材育成、規制の緩和などなど、様々な分野を連携して包括的に戦略を練り直している段階にあるようです。都市の成長に、創造性とイノベーションとは非常に関係していて、それが都市の魅力増幅に繋がると思います。横浜市での議論においても、色々な部局が連携をして、更に議論をしていく必要を感じました。

#### 【森地会長】

- ・非常に大切なことで、もう一つは、外国から来た人が相互に出会う、ある種のハブになるようなやり方があるように思う。日本はテクノポリスなんていって、大したことの無いことを多くの都市でしてしまうところもあるが、ドイツは同じ頃、バイオが弱いということで、コンペをやっていて、選ばれるのは3都市だけと決まっているのだが、大学とか、世界の企業に呼び掛けてプランを作って、当選すると数百億のお金が来るのです。そこには、その企業や大学などが来て、人間も集まってくるし、留学もそこにしたがるという。日本は平等性を重んじるので、なかなかそういう集中投資は難しい。地方分権になっていけばもう少しできるのかもしれないが、なかなか戦略が打てない。

#### 【山下委員】

- ・今のブリストルのお話は、横浜のベンチマークになる街であると感じました。先ほどお話したことと関連しますが、横浜は歴史的にどういった街であったかを一言で表現すると、「時代のパラダイムシフトが起きた街」と思っています。開国後、この街には、外国人の商人が集まってきましたので、ここに日本全国から絹・糸を売りにきた訳です。そうすると、江戸幕府は、生糸などがほとんど幕府を通らなくなったので、直接の売買を止めさせようとしたのですが、ひとたび始まったこの動きを止めることはできませんでした。つまり「流通革命」が起きたのが横浜であり、とにかく劇的に「時代のパラダイムシフト」が起きたのです。では現



在はどうかのと言うと、ほとんどが東京で、新たな時代のパラダイムシフトが起きていて、横浜が歴史的にはそういう役割を果たしてきたのだと思いますが、現在は果たせていない状況になっているのではないかと思います。この時代に新たな横浜の街のあり方としては、先ほどお話のあった「イノベーション」というのは、非常に重要なテーマだと感じています。これから、将来どんな人を横浜に集めるかと言うときに、やはり、「若者と企業」を集めるということが大事だと思います。成熟した都市であるロンドンで、素晴らしいアートやパフォーマンスが生まれていますが、常に若い人達に共感されるような仕組みをしていかないといけないと思います。若者にとってエキサイティングな街だと思ってくれないと、「高齢者にやさしいまちづくり」だけを全面的に出してしまうと、若者は魅力を失くしてしまいます。横浜の都市のコンセプトとして、「イノベーション」ということを考えた時に、「アジアのイノベーションのハブ」として、これから色々なことができるのではないかと思います。環境省も横浜市が取り組んでいる環境への取り組みは大変素晴らしく、全国に広げたいと絶賛されていると聞きましたし、世界の要人はたいてい、首相官邸に伺った後に横浜に立ち寄りたいたいということで、こんなに世界の要人が集まる市は無いと思います。そういう意味で、街が常に様々なチャレンジをしていなければ、魅力的な街にならないし、また、それが無いと、これからの国際会議は誘致できないのではないかと思います。我々の街はこういう街であるということが、MICE 誘致の企画書の中に盛り込まれていないと、激しい誘致競争の中で勝ち残ることはできないのです。京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略特区がありますが、「ライフイノベーション」とは何なのか、ということももっと議論がされていなければならないと思います。商品開発に行き詰ってなかなか新しい事業が進まない企業が、横浜に来たらブレイクスルーするような、まさに「フューチャーセンター」のような機能を街が果たせば、先ほどのブリストルのような街になると思います。横浜は「デザイン」とか「クリエイティブ」を大切にしている街ですので、デザインもイラストやモノの形のデザインではなくて、社会のあり方をデザインすることを考える人たちが集まることでこれからの未来がある若者もエキサイティングな街であると認知すると思います。世界の都市ランキングも 10 位以内に入っていくためには、「横浜といえばイノベーション」だと世界に認知されるようになっていかなければならないのではないかと感じました。

【佐々木委員】

- ・ 事前に資料を説明いただいた時に、書いている内容は、間違いは無いけれども、スピリットが無いと感じていて、例えば、先ほどお話のあった DNA とか、それから、もう一つ、この中では、チャレンジとリスペクトというのが、感じられなくて、それが無いと、ここにあることは、どこでもやらなければならない条件みたいなことですから、それをどうやっていくのかという方針としても、共有がなかなかできないのではないかと思います。やはり、リスペクトというのは、こ

れまで横浜が築き上げてきたチャレンジの積み重ねであって、その成果、例えばハードなインフラで言えば、首都高を掘割にしたという 1970 年 1980 年のアーバンデザインにおけるチャレンジの成果であったりとか、色々な成果が色々な分野であると思いますので、それにもう少し敬意を払い、一言で言うと、横浜のハマっ子というマインドであったり、プライドであったりを明確化して、皆が共有できる形にしていくことが、P.6 の文言とは別に作っていく必要があるという気がしました。そういう話をしていくと、どうしても歴史的なものに対する敬意、先ほど鈴木委員がいつておられましたようにアジアのどの都市も歴史を大事にすることになる。ただ、それは、プレモダンに対する敬意であって、それを保存していくと、テーマパークのような形にもなってしまう、アイコンとしての歴史性の保存、デザインとなっていく。横浜の中では、今手を打たないといけない歴史として、関内などにあります 5 層ぐらいの中低層のいわゆる高度経済成長からずっと日本を支えてきた建築で、いわゆる大企業によるものではない、一人一人の小さな会社やオフィスなどの活動の正にそのゆりかごになったような建築物が非常にたくさんある。それはもう 10 年 20 年すると、立派な歴史的資産となつて、レイトモダンを支えてきた歴史的なインフラであったり、アーバンデザインであったり、都市のストックというものになるので、これらに今きちんと手を打つことで横浜のもう一つ継承しなければならないもの、また、多くの人に学んでいただけるものになっていくのではないかと考えています。歴史性といったときにも、それをどう捉えていくのか、丁寧な議論をしたいと思っています。また、それを育んできたのは、官主導というよりは、横浜に住んでおられる地域の方々の主体性である、ルールによらず、協議型でやってきたというすごいスピリットがある。例えばグランドホテルの前のイチョウ並木も、個人の方の寄附でできたと聞いているし、民間の人がつくり上げてきた街の活力の進め方、街のつくられかたに敬意を表して、それをどう継承していくとかということを考えていきたい。ここから先は言い過ぎかもしれないが、その時に、森ビルという大企業が提案している指標をつかって都市ランキングを見るようなことをこの会議ですつとやっていくのかと言うところが気になっている。やはり、横浜オリジンということにこだわっていきたい。会議の資料一つにしる、文言一つにしても、ディテールにこだわって作っていくのが、横浜のマスタープランということではないか。

**【佐土原委員】**

- ・横浜のテーマは何かという時に考えることなのですが、環境未来都市や環境への取り組みについて、世界の都市が環境に取り組んでいこうとしている中で、横浜は、日本の環境未来都市に選ばれて、しかも、生活をしている都市の中で、それを実現するという、汎用性の高い環境未来都市のモデルに取り組んでいるということがあります。おそらくこれが今の時代に、どんどんパラダイムがシフトしていく中で、とても価値を持ってくる可能性があると思っています。今あるテーマだけでなく、これからの時代の変化を見通した上での横浜のテーマが何

かということ、その中の環境に今取り組んでいることは、非常に重要と思っています。

**【森地会長】**

- ・ありがとうございました。

**【新井委員】**

- ・今、歴史をどのようにというお話が出ましたが、せっかく横浜が世界の音楽に門戸を叩いた日本を代表する場所で、いわゆる吹奏楽の発祥の地であったり、ジャズの発祥の地であったりとか、そういった横浜で生まれた音楽が、歴史が、モニュメントとして今は全然見えないというのがありまして、山下委員がおっしゃられていた広島では、本当に古いホールが残っていて、そこに平和コンサートをしに、海外からいろんな人が来て、その壁にサインをしていくなど歴史を積み重ねていくということがあって、少なくとも、文化施設においては、新しいものよりも、いかにそのホールや劇場が年をどのように重ねてきたのが重要視されると思っています。横浜では、神奈川県民ホールとか、みなとみらいホールですとか、KAAT であったり、そういったものを横浜の歴史として壊さずに残しつつ、先に続けていけるようなことを考えていかないと、ただ新しいものをつくるだけということであると、文化都市としてのモニュメントが育たないと思うので、やはり長い目で考えていって、そういった残す価値のある施設を作っていくのが良いのではないかという風に思います。

**【森地会長】**

- ・だいたい時間ですが、あと数分ございます。

**【藤野委員】**

- ・例えば、みなとみらいをいつも見ていると、上海だと直ぐに建物が建っているのに何でいつまでも未利用地があるのだらうと思うのですね。だけれども今、企業誘致の話で言うと、BCP というかそういうビジネス・コンテニティが非常に重要視されるようになり、過去にみなとみらいは地盤が丁寧に作られていて、そのことが、企業が来る理由にかなりなっているのですね。そういう意味であまり目先でなくても、長いスパンで、これまでやってきた成果を果実とするような方向性が良いのではないかと思います。それからもう一つ、全然違う話ですが、目標年次の話で、2025 年と書いてありますが、まずは、2020 年ということが、東京オリンピックもあって、横浜も一つそれに特徴を出せるようなことも良いのではないか。その後は 30 年で考えて、そういう方が分かりやすいのではないか。2025 年というのは、何か根拠があるのか。

**【事務局】**

- ・横浜市の基本構想の目標年次が 2025 年となっていることから、とりあえずはそこで一回置いてという考え方としている。

**【森地会長】**

- ・ 先の東京オリンピック前には、モノレールが3年、新幹線が5年でできた。今回は、手続きだけで3年かかってしまう。2020年までに、何にもできなくなってしまうかもしれない。

**【矢ヶ崎委員】**

- ・ P.6 が一番重要であって、その中で、データを見ると、この対象となっている地域が横浜の経済を支えている訳ですよ。ここが稼いでいる地域で、その横浜の成長エンジンという要素を忘れないようにしながら、他をどのように連携させていくのか、そこはしっかり見たいなというところである。

**【池邊委員】**

- ・ 先ほどのお話の中で、やはり、ライフスタイル、30年後のライフスタイルを演出するということが必要で、例えば、オペラができたとしても、アフターシアターがない国は東京だけだと言われていて、ベローナなどの劇場に自分も行くが、やはり、昼間からお酒を飲んで、開館を待って、途中で外に出てきて、お酒を飲んで、夜12時まで、それに時間を費やしていく。日本の場合は、いくら便利になっても、みなとみらい線に来て、3時間オペラを見て、帰ってしまうのではいけない、やはりライフスタイルと言う観点で見えていかないといけない。

**【藤野委員】**

- ・ 今の話に関連して、以前に商工会議所で一度横浜の魅力についてアンケートをしたときに、横浜は夜景ということであったが、夜景を見る時間に皆がいる場所がなく、お店も閉まっていたりする。

**【森地会長】**

- ・ アジアの都市は、全部モノセントリック、つまり、一極集中になっている。ただ、巨大都市ですから、なんとかポリセントリックにしていきたい。そのやり方を彼らは悩むけれども、できないのです。ちゃんと横浜はそういうことでできてますという発信をすることは非常に重要である。今、アジアの人達がものすごいと言っているのは、田園都市線と開発で、あんなことがどうやってできたのか。残念ながら日本の鉄道事業者はちっとも出て行かないが。したがって、向こうの問題から見たときに、横浜の魅力はどうかということ。それから、別の横浜の会議でも申し上げたが、日本の農業の6次産業化は、皆言うけれども、なにをやるのかという話が、結局同じようなものを一杯作ってしまって、販路が無いことから、防腐剤がたくさん入って、市場の要求に合っていない。流通がうまくいっていない。しかし、流通はやりようによってはできる。もう一個は、日本の国内のマーケットより、アジアの人達から見て安全だとかきれいだ、おいしいと素材としては言われているが、日本人側がそれに合うものを作っていない。観光でも、すぐ中国だというのが、上海料理と北京料理は違う。そういった違うニーズを持っている人に何を提供するかということはどういったら良いか。本当はその味がちゃんと分かるコックがいらないといけないということ。それが無いとできない。どこ

かで集めてやれば良いですし、料理学校をつくるのも良い。また、eコマースの始まった頃に、フランスのドーバー海峡の街で、そういうことを売りにして、ヨーロッパ中前日 16 時まで予約すれば次の日の午前中に届けるというコンセプトで、流通団地を作ったらあつという間に e コマースの企業が多く集まった。そういう拠点がまた、東京の環状沿いにできるよりは、横浜にあった方が空港もあるし良いとは思いますが。それから、東名沿いも便利になりますから、そういったことも良いかもしれません。

- ・それから、外国人が住みやすい町というのを売りにしたのは、神戸ですかね。本当に困るのですよね、留学生をどこかに下宿させようとした時に。外国人居住というすぐに新大久保的なところや、麻布のようなところを想像されるかもしれないが。ぼくらが外国に行くとぱっと子供を小学校に入れられるような雰囲気になかなかつけれないでいる。
- ・また、ヘドロを処理して海をきれいにしようと言っている。日本は上に土を置いている。横浜はまだですが、東京は週に 1 回くらいのピッチで下水が流されていて大腸菌がいっぱいいる。分流式の下水をちゃんと作らないといけませんが、その点、横浜はきちんとできている。ただ、海の方は砂をかぶせてヘドロを抑えていて、それは、根本的な対策ではない。それで、ヘドロ処理工場をつくれれば良いと思っているのだが、そうすると、無限に仕事がある。実はヘドロを取って、シンガポールの海はきれいにした。限られたお金だけ入れて、山下公園の前から段々とやっていって、横浜は海をきれいにしましたということは、アジアでは売りものになるかもしれない。
- ・本日ご議論いただいたのは、一番冒頭は、観光と産業と住宅のバランスとか、相乗効果をどうするのかということがありました。二番目には、2050 年という時代をどういう風に意識をして、そういう時代にミートするようなことは何なのかということでありました。三つ目は、各地区の特色は何で、それを一体化するとか、それはどうするのかといったこと。もう一つは、横浜の希少性とか。最後は、それとも関連するが、戦略的で、歴史とか、文化とか、芸術とか、色んなことで、それぞれでこんなことをしたら良いのではというアイデアをいただきました。マスタープランですから、どういった精度でやるかといった話がありますが、マスタープランはマスタープランで、後は事例として出すということでも構いません。実は、横浜市の側で、次回の説明資料に、かなり入っているのではと思います。4 章のディテールですが。
- ・それで是非、今日、色々な話をいただいたものを、議事録風ではなく、項目別に作ったものを並べといてください。2 つ意味があって一つは、アイデア集になりますし、それから、それぞれの方がまた考えていただくのに、役に立つということですので。是非なるべく漏らさないでお願いできればと思います。
- ・では、ありがとうございました。

以上

資 料 ・ 特 記 事 項	資料1 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会条例 資料2 横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会委員名簿 資料3 第1回横浜市都心臨海部再生マスタープラン審議会 座席表 資料4 諮問書（写） 資料5 横浜市都心臨海部再生マスタープラン（仮称）検討資料 資料6 スケジュール
---------------------	--